

清武町埋蔵文化財調査報告書 第19集

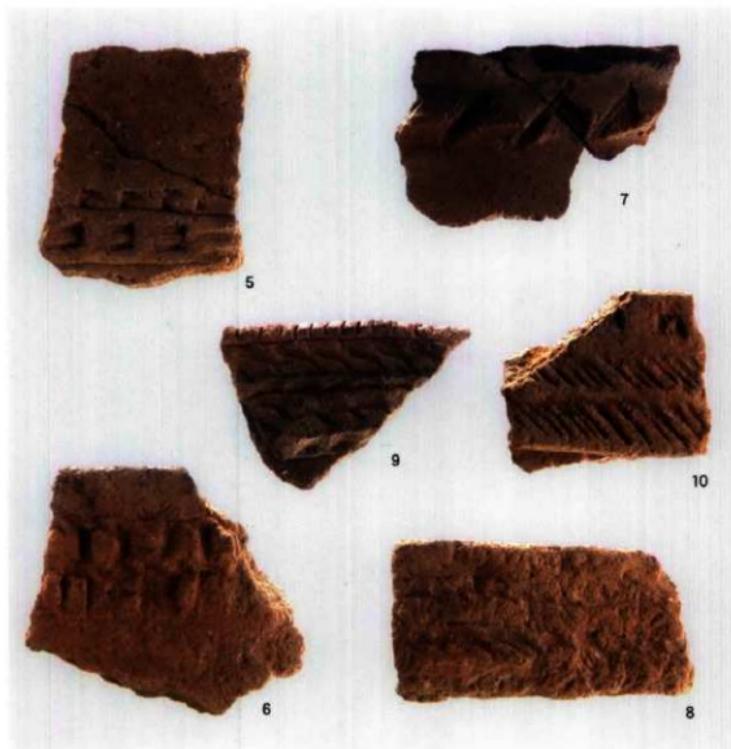
KAMIINOHARU

# 上猪ノ原遺跡第5地区

県営農免農道整備事業船引2期地区工事にかかる  
埋蔵文化財調査概要報告書

2006

清武町教育委員会

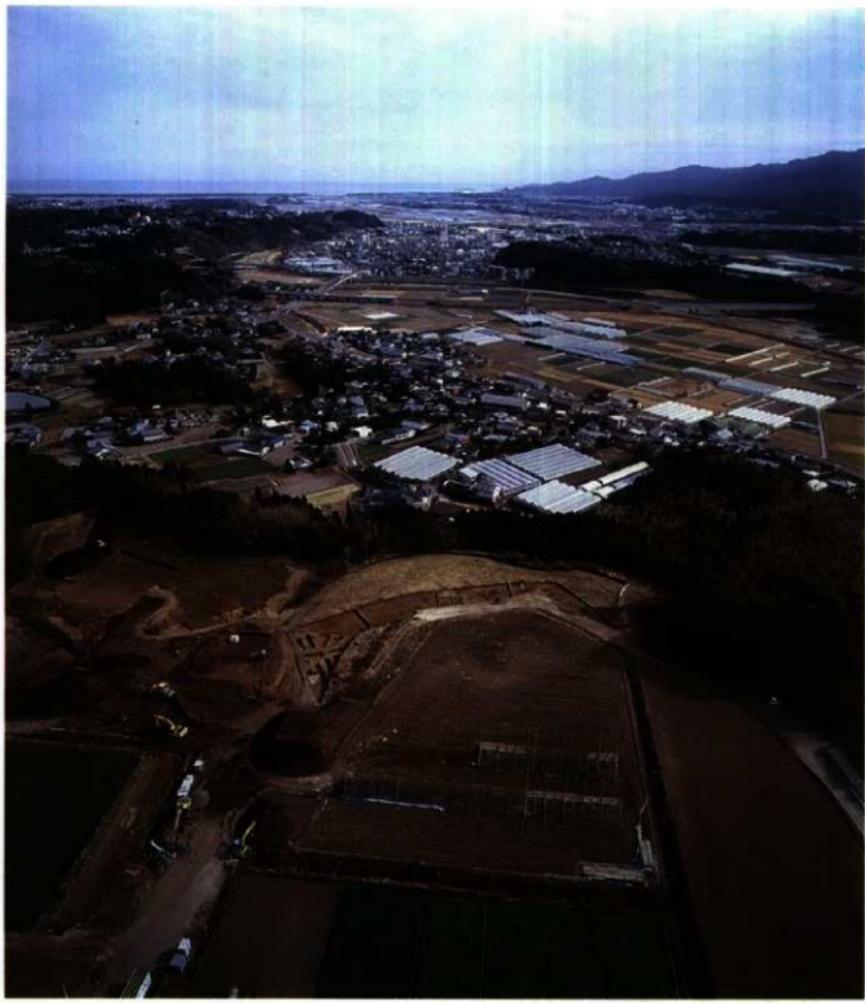


縄文草創期土器片



縄文草創期～早期石製品

トロトロ石器



卷頭カラー図版2 上猪ノ原遺跡第5地区全景

# 序

本書は、平成17年度から船引地区で始められた県営農免農道整備事業船引2期地区工事に伴い発掘調査を行った上猪ノ原遺跡第5地区の発掘調査概要報告書です。

平成17年度の調査では旧石器時代のナイフ形石器をはじめ、古代の掘立柱建物跡や中世の溝状遺構などの様々な遺構・遺物が発見されました。その中でも特に縄文時代早期の資料の発見は充実したものであり、本町が南九州に栄えた早期縄文文化の中に存在していたということがわかってきています。

今後、これらの成果が考古学研究の学術資料となり、また学校教育や生涯学習に活用され、文化財保護意識の向上につながれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査を実施するにあたり、ご協力いただいた地元の皆様をはじめ関係各局に心より御礼申し上げます。

平成18年3月

清武町教育委員会

教育長 水元三千夫

## 例　　言

1. 本書は県営農免農道整備事業船引2期地区工事に伴い、平成17年度に実施された上猪ノ原遺跡第5地区の発掘調査概要報告書です。
2. 調査組織は以下のとおりである。

調査主体　清武町教育委員会

事務局

教　育　長	神川孝志（～平成17年10月）
	水元三千夫（平成17年10月～）
教　育　次　長	小城員久
生涯学習課長	落合兼雄
生涯学習課長補佐	長友真一
生涯学習課係長	伊東但
生涯学習課主任	井田篤

調査員

生涯学習課主事	秋成雅博
生涯学習課嘱託	今村結記
生涯学習課嘱託	若杉知和

3. 現場における測量・遺構実測作業は秋成・今村・若杉・  
が行い、一部を街ジバングサーベイ・鶴埋蔵  
文化財サポートシステムに委託した。
4. 遺物の整理及び報告書作成業務については秋成・今村・若杉・  
が清武町埋蔵文化財センターで行った。
5. 本書で使用した写真について、現地での遺構等の撮影は秋成・今村が行い、空中写真については鶴スカイサーベイに委託した。また、遺物の撮影については秋成・今村・若杉が清武町埋蔵  
文化財センターで行った。
6. 本書で使用した土層及び土器の色調は『新版 標準土色帖(1997年後期版)』の土色に準拠した。
7. 本書に使用した方位は磁北(M.N)と座標北(G.N)がある。レベルは海拔絶対高である。
8. 本書で使用した記号は次のとおりである。  
S B : 堀立柱建物跡 S I : 集石遺構 S C : 土坑（炉穴・陥し穴状遺構も含む）
9. 本書の執筆と編集は、秋成・今村・若杉が担当した。各担当については目次に記した。
10. 出土遺物やその他の諸記録は、清武町埋蔵文化財センターに保管している。

# 目 次

第1章 はじめに	(秋成)	1
第1節 調査に至る経緯		1
第2節 立地と環境		1
第3節 調査の概要と基本層序		1
第2章 アカホヤ火山灰層上面の調査	(今村)	4
■ 挖立柱建物跡		
■ 土坑		
第3章 アカホヤ火山灰層下位の調査	(秋成・若杉)	8
第1節 繩文時代草創期～早期の調査		8
■ 集石遺構		
■ 炉穴		
■ 脱し穴状遺構		
■ 包含層出土遺物について		
第2節 旧石器時代の調査		13
第4章 まとめ	(秋成・今村)	13
調査抄録		17

## 挿 図 目 次

第1図 遺跡位置図 .....	2
第2図 遺跡周辺地形図 .....	3
第3図 基本土層図 .....	4
第4図 アカホヤ火山灰層上面主要遺構配置図 .....	5
第5図 SB-7実測図及びSB-7出土遺物実測図 .....	6
第6図 SC-19実測図及びSC-19出土遺物実測図 .....	7
第7図 2005年度アカホヤ火山灰層下位調査区遺構配置図 .....	9
第8図 繩文時代早期遺構実測図 .....	10
第9図 繩文時代草創期～早期遺物包含層出土土器実測図 .....	11
第10図 繩文時代草創期～早期遺物包含層出土石器・石製品実測図 .....	12
第11図 旧石器時代遺物包含層出土石器実測図 .....	13

## 図 版 目 次

巻頭カラー図版 1 上猪ノ原遺跡第5地区出土遺物①	
巻頭カラー図版 2 上猪ノ原遺跡第5地区全景	
図版 3 SB-7 .....	14
図版 4 SC-19① .....	14
図版 5 SC-19② .....	15
図版 6 SI-8 .....	15
図版 7 SI-10 .....	15
図版 8 SC-28 .....	15
図版 9 SC-16 .....	15
図版10 旧石器出土状況 .....	15
図版11 SB-7出土遺物 .....	15
図版12 SB-7及びSC-19出土遺物 .....	15
図版13 上猪ノ原遺跡第5地区出土遺物② .....	16

# 第1章 はじめに

## 第1節 調査に至る経緯

平成17年度より実施されることとなった県営農免農道整備事業船引2期地区工事に伴い、事業区の一部に上猪ノ原遺跡の一部が含まれることが明らかになった。遺跡の取り扱いについて、宮崎県中部農林振興局と慎重に協議したところ開発区域について宮崎県中部農林振興局の委託を受け、清武町教育委員会が発掘調査を実施するということになった。今年度の調査期間は平成17年7月26日から平成18年3月10日までで、調査面積は約3700m<sup>2</sup>である。

## 第2節 立地と環境

清武町は宮崎平野部の南西部に位置する。本遺跡は町の北西部の船引地区に所在し、町内を北西から東へ流れる清武川左岸のシラス台地上に立地する。本遺跡の標高は63～62mで遺跡が立地する台地の斜面の中腹には湧水点なども確認されている。

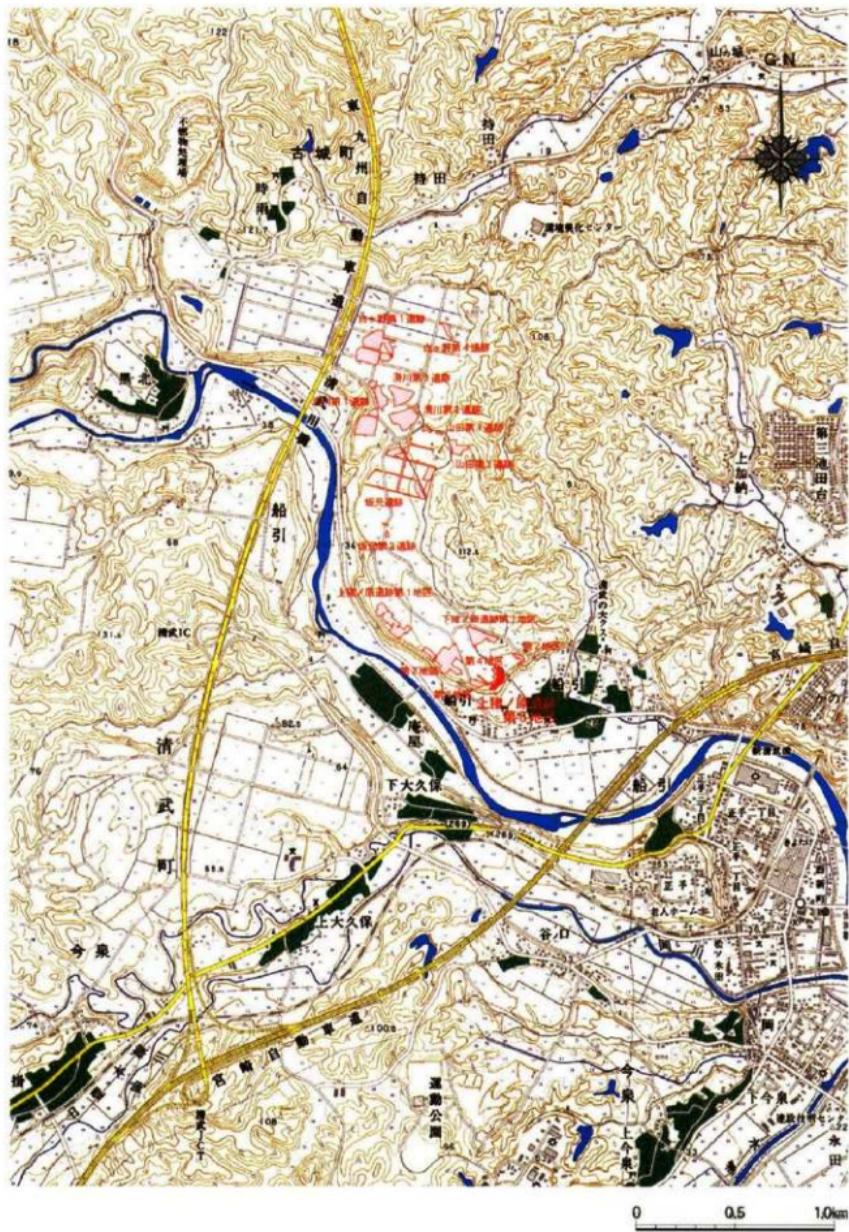
本遺跡の立地する台地は地元の人から「船引原（フナヒキバル）」とも呼ばれている。この台上では縄文時代早期の資料を中心に貴重な発見が続いている白ヶ野遺跡、滑川遺跡、山田遺跡、坂元遺跡、下猪ノ原遺跡など約20遺跡が所在する（第1図）。

## 第3節 調査の概要と基本層序（第3図）

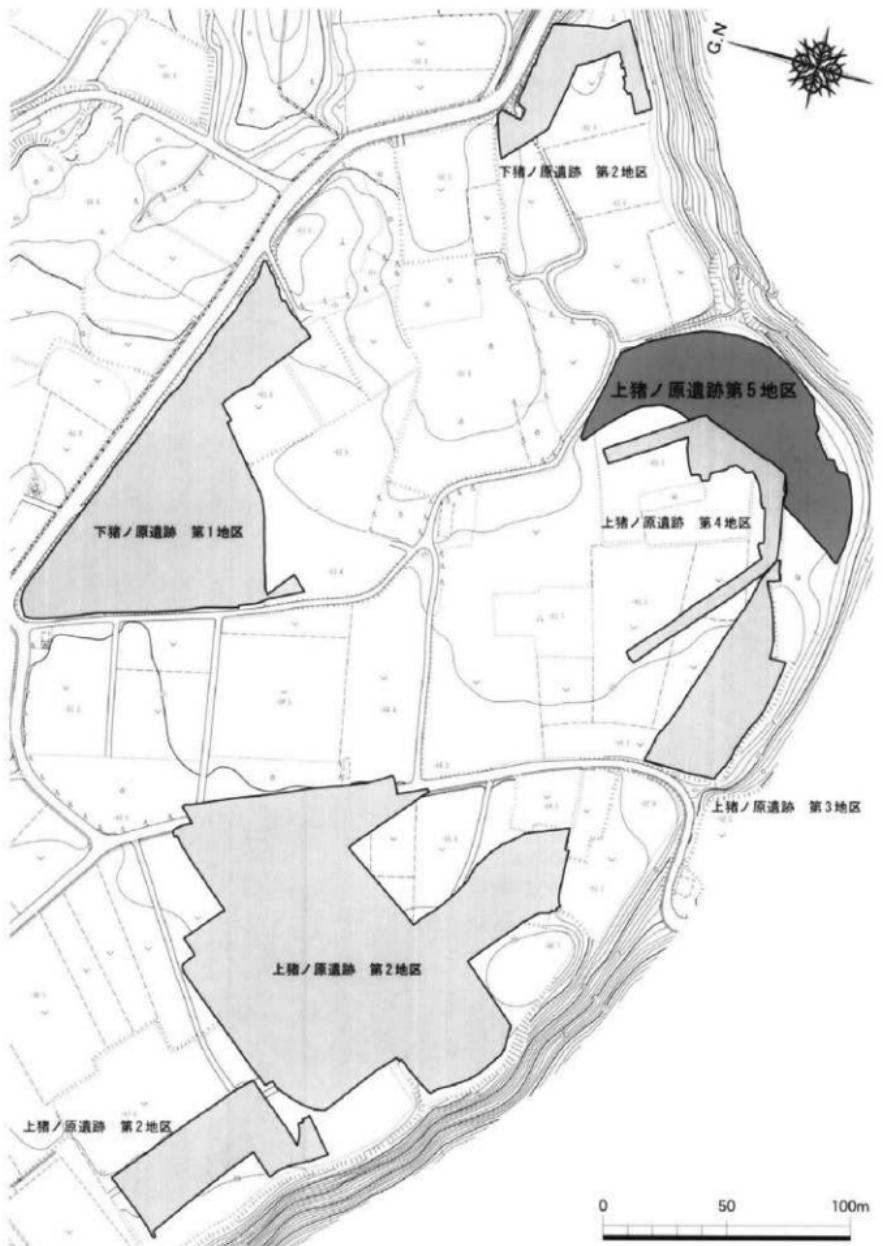
上猪ノ原遺跡は平成12年度から平成17年度の間に県営農地保全整備事業に伴い発掘調査が行われており、その調査区については第1地区から第4地区までが設定されている。県営農免農道整備事業によって調査が行われる区域については上猪ノ原遺跡第5地区と設定を行った。第5地区は第4地区と隙間なく隣接する状況となっている（第2図）。

調査は重機による表土（耕作土）の剥ぎ取り作業から始めた。調査区の現況は畑地と杉山であり、地山は大規模な削平は受けてはいなかった。しかし、調査区の一部（特に杉山の範囲）においては木根の搅乱坑が多数確認され、その中からは多数の遺物が発見された。

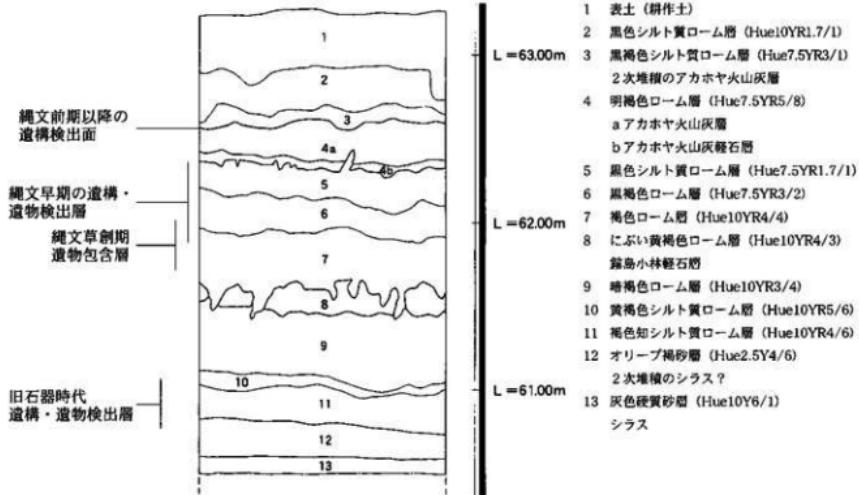
表土の除去後、アカホヤ火山灰層（4層）上面にて縄文時代前期以降の遺構の検出作業を行い、検出された遺構について記録作業を行った。4層上面における調査終了後、再び重機により4層を除去し、縄文早期の遺物包含層である5層を露出させ、5～7層までを人力により丁寧に掘り下げを行った。その結果、多数の縄文草創期～早期の遺構・遺物を検出したので、その記録作業を行った。その後に行うこととなった旧石器時代の調査については7層までの掘り下げが終わった箇所から、遺物包含層を確認する為にトレンチを設定し、人力により8層以下の掘り下げを行った。その結果9～12層にかけて遺物が確認された。遺物が確認されたトレンチについてはトレンチを拡張し、出土した遺物のまとまりを把握できるように努めた。このようにして旧石器時代の調査を行い、本年度の調査を終了した。



第1図 遺跡位置図 ( $S = 1/25000$ )



第2図 遺跡周辺地形図 (S = 1/2000)



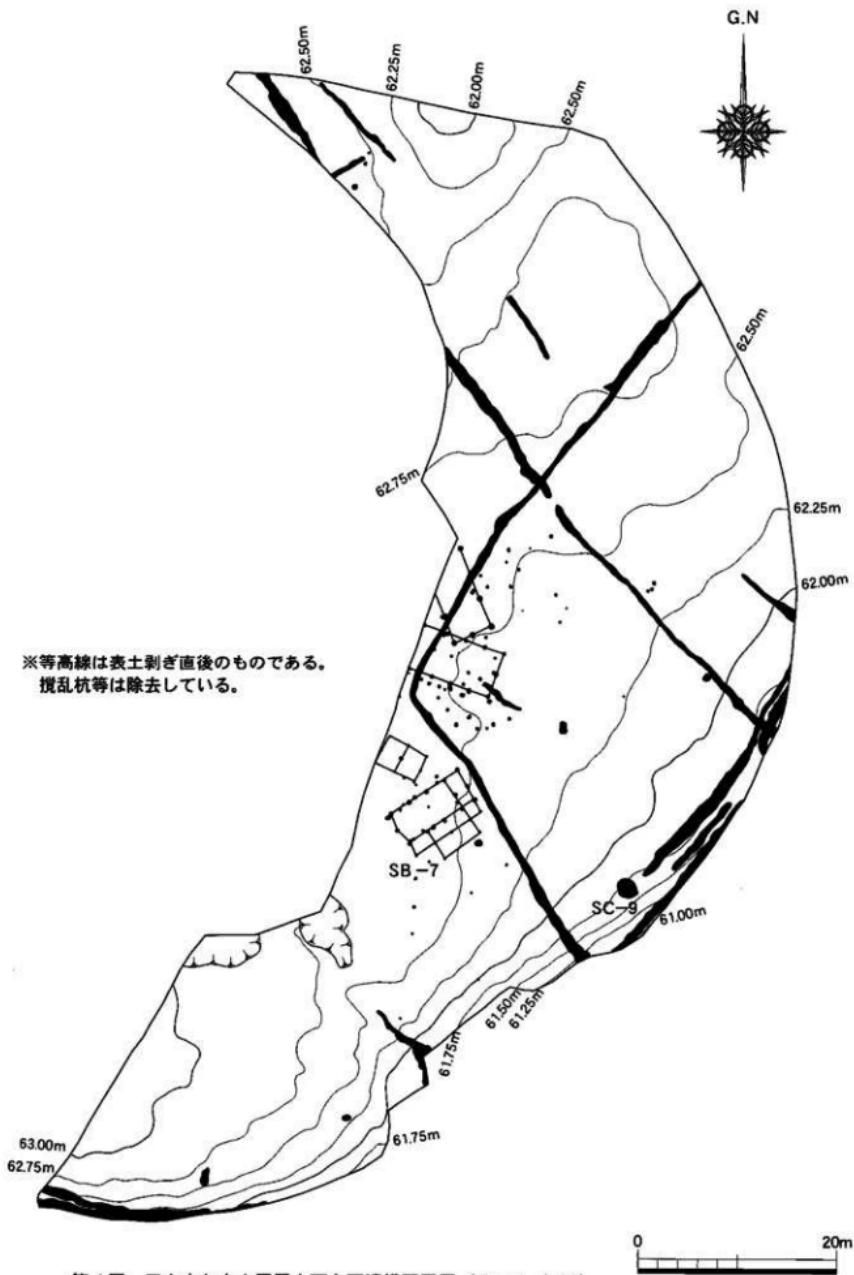
第3図 基本土層図 (S = 1/30)

## 第2章 アカホヤ火山灰層上面の調査

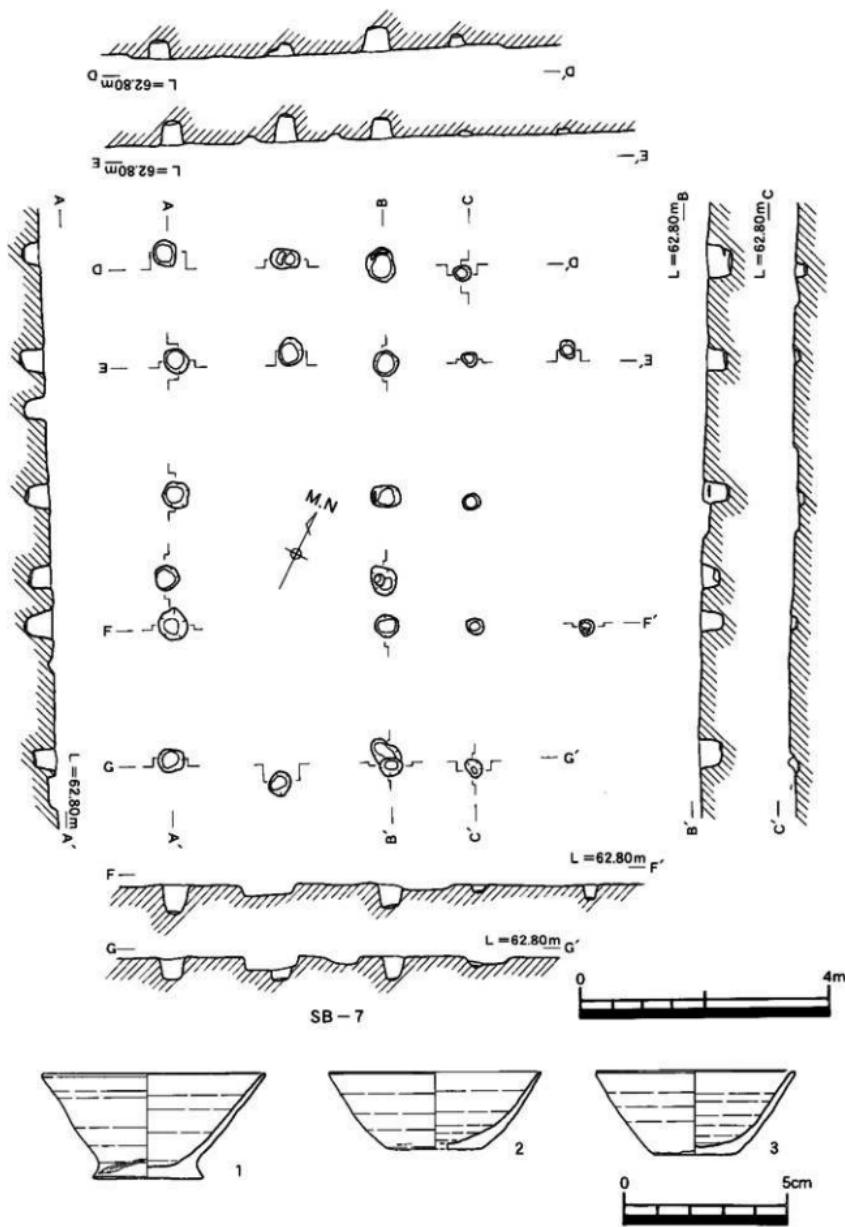
調査区の大部分においてアカホヤ火山灰層（4層）が残存していたが、樹木の根や畑の耕作による搅乱坑が多数存在しており、あまり良好な状態ではなかった。しかし、4層上面にて遺構検出作業を進めたところ、掘立柱建物跡4軒（古代）、溝状遺構10条（古代1条、中世1条、時期不明8条）、道路状遺構2条（時期不明）、土坑4基（古墳時代1基、時期不明3基）のほか、多数の柱穴を確認することができた。なお、今回実測図等で報告することができなかつたが、2次堆積のアカホヤ火山灰層（3層）中において曾畠式土器の破片が数点出土している。

### ■ 掘立柱建物跡

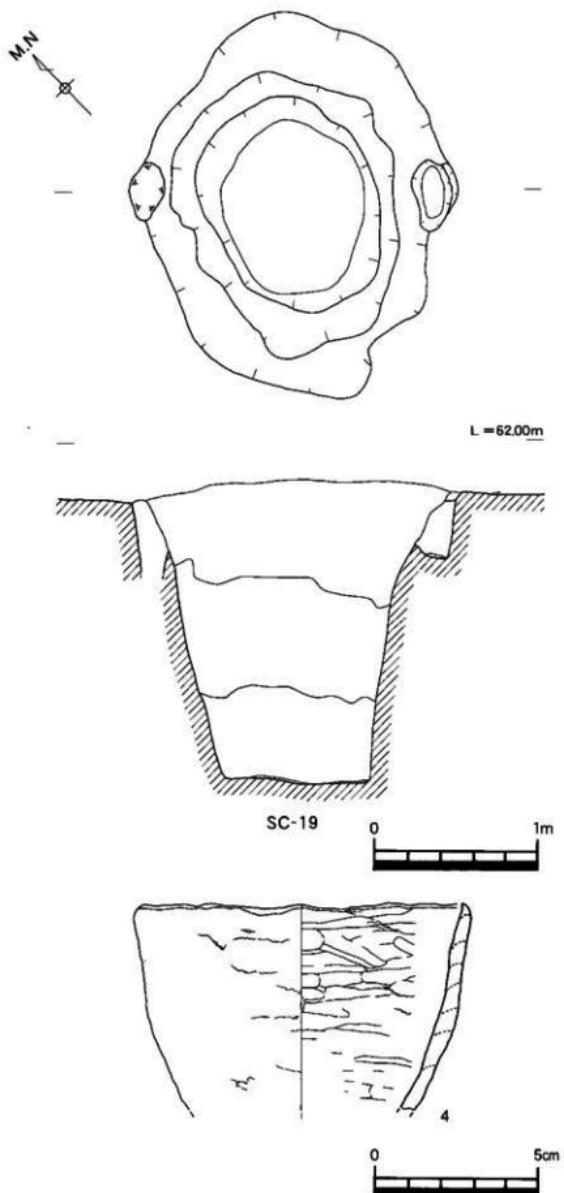
SB-7は調査区南西部に位置する。主軸方位はN-61° 50' -Eである。身舎の規模は、桁行4間（約8.96m、柱間2.24m）、梁行2間（約3.92m、柱間約1.96m）である。東側に底がつき、さらに孫庇の可能性がある柱穴が2基認められた。底を含む梁行は約5.10mで、孫庇も含めると約6.62mである。身舎のみの面積は35.12m<sup>2</sup>、底・孫庇の部分も含めると50.71m<sup>2</sup>である。柱穴の形状は、円形もしくは梢円形であるが、一部不整形のものも認められる。身舎柱穴の直径は32~48cm、深さ26~50cmである。底・孫庇柱穴の直径は約22~26cm、深さ8~18cmである。



第4図 アカホヤ火山灰層上面主要遺構配置図 ( $S = 1/500$ )



第5図 SB-7実測図 ( $S = 1/80$ ) 及びSB-7出土遺物実測図 ( $S = 1/3$ )



第6図 SC-19実測図 ( $S = 1/30$ ) 及び出土遺物実測図 ( $S = 1/3$ )

1～3はSB-7の柱穴より出土した土師器である。1はいわゆる充実高台壇と呼ばれているものである。体部から口縁部にかけて直線的に開く。2・3は杯である。2は体部が直線的に開き、口縁部がわずかに外反する。3は体部から口縁部にかけて直線的に開く。1～3の底部はいずれも回転ヘラ切りによる切り離しの後ナデられる。

#### ■ 土坑

SC-19は調査区の南東部の傾斜が急激に変化するところで検出された。約 $2.2 \times 1.9$ mの不整形円形プランを呈する。深さは約1.8mを測る。床面より20cmほど浮いたところで土師器の甕の破片が出土した。

また南東側に柱穴が検出された。平面プランの検出作業時において切り合い関係は把握されなかつたので、SC-19に伴う施設の可能性がある。対面の北西部にも掘り込みの痕跡が検出されたがこれについては木根による攪乱であることを確認している。

4は甕である。胴部が明瞭に屈曲しないタイプのものである。口唇部内面はわずかに張り出す。内・外面ともに粘土紐の接合痕が明瞭に残る。今塩屋・松永編年(註1)の4～5期に該当する資料と考えられる。

註1 今塩屋毅行・松永幸寿 2002 「日向における古墳時代中～後期の土師器—宮崎平野部を中心として—」『古墳時代中・後期の土師器—その編年と地域性—』第5回九州前方後円墳発表会要旨資料 九州前方後円墳研究会

## 第3章 アカホヤ火山灰層下位の調査

### 第1節 縄文時代草創期～早期の調査

本年度のアカホヤ火山灰層下位の調査は工事の工程上調査区の西側のみ行うこととなった。

縄文草創期・早期の遺物包含層である5層～7層を人力により掘り下げを行い、焼磧70,000点以上・遺物7000点以上を検出した。また遺構については集石遺構33基・炉穴7基・陥し穴状遺構1基・土坑4基を検出した（第7図）。

#### ■ 集石遺構

集石遺構は5層下位から6層にかけて検出された。集石遺構は多量の礫が集中する箇所が見つかることや掘り込みのプランが明確に検出されることにより確認することができた。

SI-8は5層下位にて検出した。礫の範囲は約1.4×1.4mで、掘り込みは直径約1.3m・深さ約0.35mの不整円形プランを呈する。礫の総数は219個・総重量98.2kgを量る。SI-10は5層下位にて検出した。礫の範囲は約1.4×1.6mで、掘り込みは直径約1.5m・深さ約0.34mの不整円形プランを呈する。礫の総数は577個・総重量162.9kgを量る。

#### ■ 炉穴

炉穴は全て6層下位～7層にかけて検出されており、全体的に集石遺構よりも検出面が低い位置にある。しかし、集石遺構と炉穴の検出面の高低差は単純に時期差（掘り込み面の高低差）を現しているものではないと考えられる。

集石遺構や炉穴が検出される層は遺物や焼磧を多量に包含する地層である。調査ではこの包含層を掘り下げながら遺構・遺物を検出していく。だが遺物が同じレベルで多量に出土した場合、それらが遺構の掘り込み面を覆ってしまい、遺構の平面プランの検出作業を困難にしてしまう。しかしこのような状況でも集石遺構は多量に焼磧を伴うという特徴から、包含層の掘り下げの最中に焼磧の密集箇所を把握して集石の位置や範囲を確認することができる。一方、炉穴は遺物をあまり伴わないので包含層を掘り下げている間の検出は難しく、包含層の掘り下げが終了するまで平面プランが確認できないことがある。このような両者の遺物の伴う状況の違いから遺構の検出面に高低差が生まれてしまうということも考えられる。

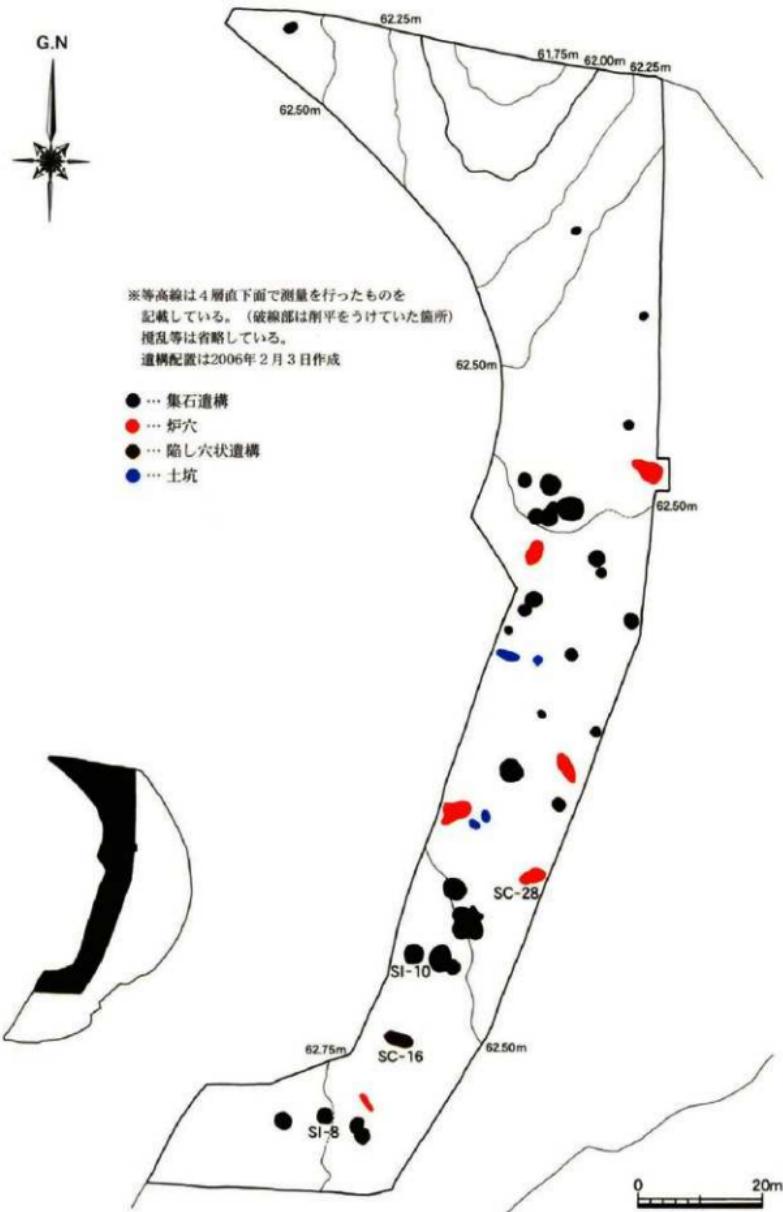
SC-28は6層下位にて検出された。約2.13m×1.1mの不整梢円形プランを呈する。燃焼部と考えられる西側は一段下がっており、床面には焼土が多量に詰まっていた。

#### ■ 陥し穴状遺構

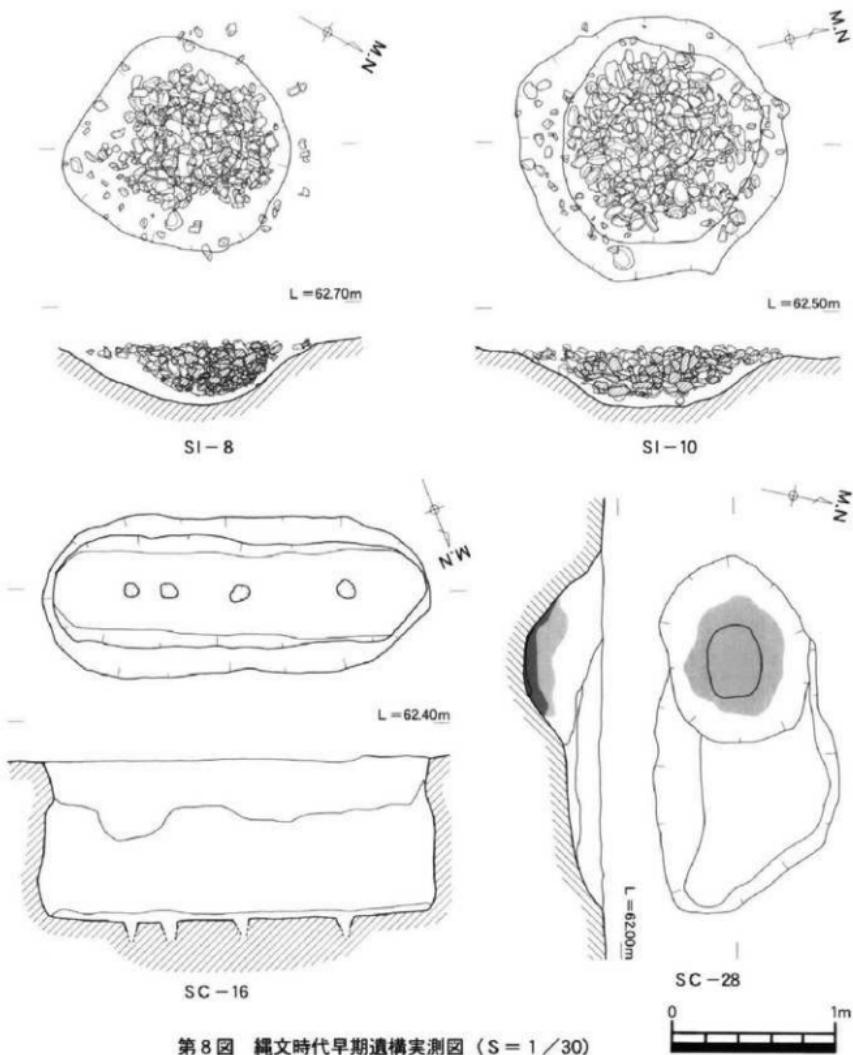
SC-16は6層下位にて検出された。約2.3m×0.9mの長梢円形プランを呈する。深さは約0.95mを測り、床面には4基の逆茂木の痕跡と考えられる小穴が検出された。

#### ■ 包含層出土遺物について

早期の遺物は5～7層上位にかけて出土し、草創期の遺物は6層中位～7層にかけて出土した。草創期の遺物量は多くはないものの6～7層にかけては草創期と早期の遺物が混在する状況であり、特に石器はどちらの時期に該当するものであるかの判断が困難である。今後の整理作業にお



第7図 2005年度アカホヤ火山灰層下位調査区造構配置図 (S = 1/400)

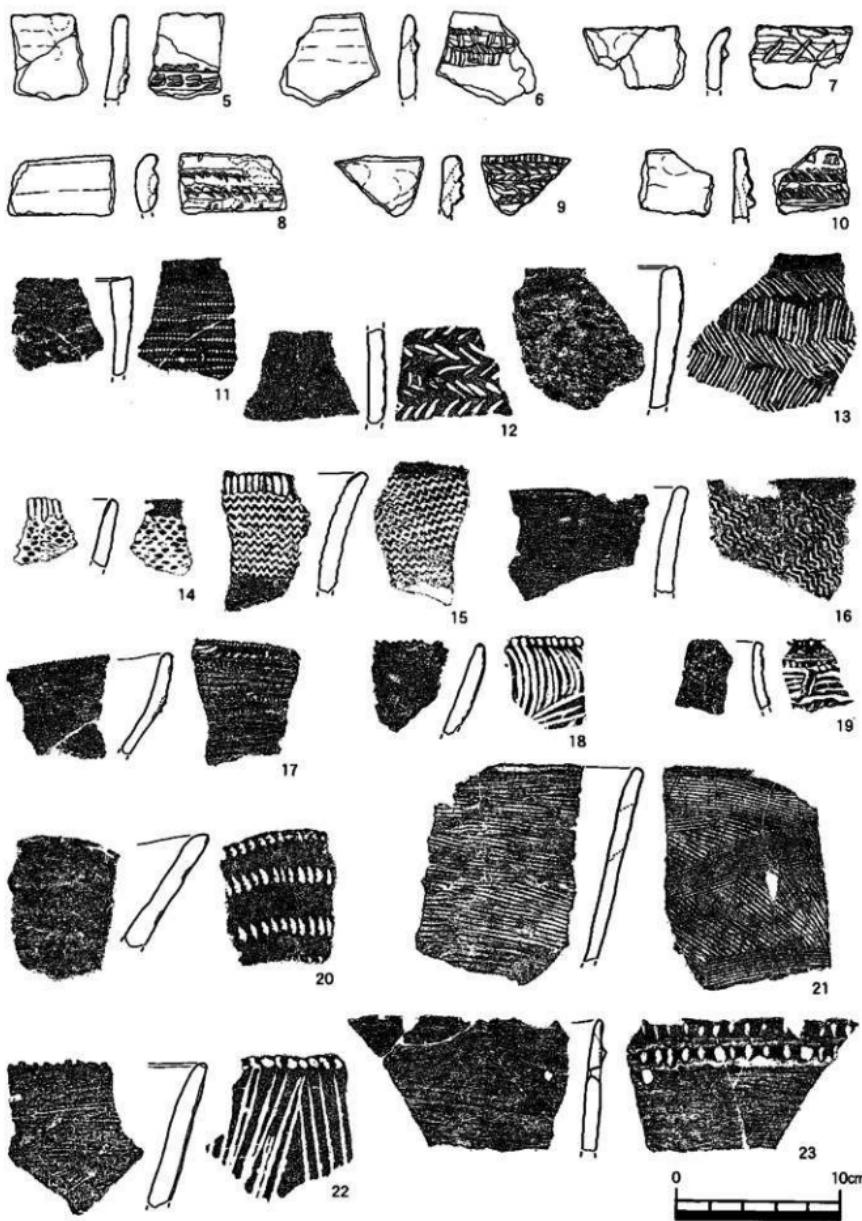


第8図 縄文時代早期遺構実測図 (S = 1 / 30)

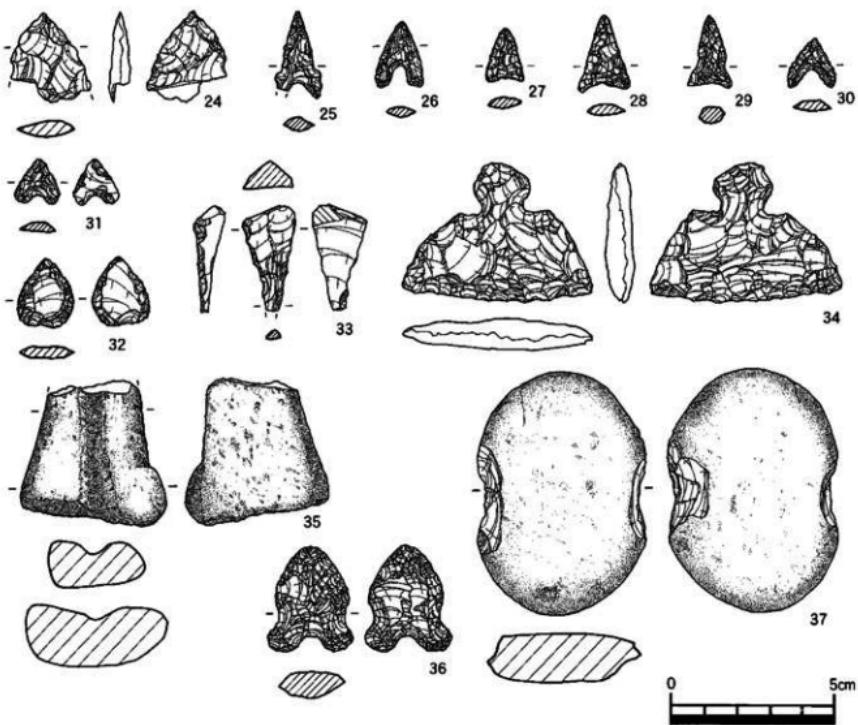
いて出土土器の平面分布などを検討することによってこの課題を解決していきたい。

5~10は草創期に該当する土器片である。全て口縁部の破片で口唇部の下に隆帯を貼り付け様々な刺突文を施す。口唇部に刻目を施すものもある。

11~23は早期に該当する土器片である。11~13は貝殻文系土器である。11は横位に刺突文を施す。12・13は貝殻条痕や沈線により羽状の文様を施す。14~16は押型文土器である。14は梢



第9図 縄文時代草創期～早期遺物包含層出土土器実測図 (S = 1 / 3)



第10図 縄文時代草創期～早期遺物包含層出土石器・石製品実測図 (S = 2 / 3)

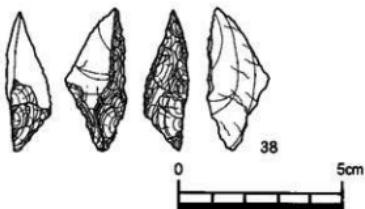
円形、15・16は山形の文様を施す。17・18・20・22は塞ノ神式土器である。17は微隆帯を施す。18・22は口唇部に刻目を有し、その下を沈線により施文する。20は波状口縁を呈し、貝殻連続刺突文を施す。19は壺形土器の口縁部で刻目突帯や沈線文を施す。21・23は条痕文土器である。23は口唇部に刻目を有し、その下には刻目突帯を施す。

24は槍先形尖頭器の尖頭部である。25～31は打製石鎌である。29については両側縁部に抉りを有する。31は素材剥片の剥離面を大きく残したものである。32は打製石鎌の未製品である。本資料は先端部が尖っているものの、入念な剥離が行われていないことから未製品に分類した。33は石錐である。錐部は両側縁部から調整を行うことで作り出している。34は石匙である。両面から数回の加撃により抉りを作りだし、刃部には入念な調整を施している。35は砂岩製の石製品である。何かを研磨したのであろうか中央部に幅8mm程度の溝状の痕跡が確認される。下部や裏面は面を整えているような感じを受ける。36はチャート製のトロトロ石器である。青灰色と白色の縞模様を呈す。肉眼観察ではわかりにくいが、顕微鏡で磨痕が観察される。37は石錐である。両側縁部に数回の加撃を行い、抉りを作り出している。

## 第2節 旧石器時代の調査

本年度の調査区において旧石器時代の遺物は9～12層にかけて出土した。その中でも最も遺物が集中して確認されたのは11層～12層上部にかけてであり、礫群も同様の状況で検出されている。12層については存在する箇所と存在しない箇所とが見られるため今後の検討が必要であるが、一応本年度の調査においてはシラスの直上の層から石器群が検出されたものと考えておきたい。これから調査や整理作業において出土資料の分布状況や接合関係などを検討したうえで、改めて結論はだしていきたい。

38は11層から出土した頁岩製のナイフ形石器である。分厚いななめ剥ぎの剥片を素材として、両側縁に刃潰し加工を施す。片縁はやや抉りこむよう調整が行われ、平面形は三角形を呈する。



第11図 旧石器時代遺物包含層出土石器実測図  
(S = 2 / 3)

## 第4章 まとめ

上猪ノ原遺跡第5地区の調査は工事の工程に沿って行うこととなった。本年度は縄文時代前期以降の調査については調査区の全域で行い、縄文早期～旧石器時代の調査は調査区の一部にとどまった。来年度は残された区域を縄文早期の調査から行うということとなっている。そのため、現時点では調査成果について言及することはできない。また隣接する上猪ノ原遺跡第3・4地区の調査成果も踏まえなければ第5地区の本当の成果を述べることはできないであろう。そこで来年度の調査や整理作業における主な課題を列挙しまとめとする。

- ① 挖立柱建物の配置状況を検討すること（上猪ノ原遺跡第4地区でも同時期の掘立柱建物は数軒検出されており、今年度検出されたものと総合的に考える必要があるため）。
- ② 縄文早期の遺構や遺物の分布状況を検討すること（上猪ノ原遺跡第4地区では集石遺構ばかり検出されたが、第5地区においては炉穴も検出されており、遺物の分布状況を踏まえた遺構の検討が必要となるため）。
- ③ 縄文草創期の土器片の分布状況を把握すること（本年度の調査範囲では平面的に限られた範囲で草創期の土器片が検出されており、来年度の調査でも草創期の遺物が出土することが予想されるため）。
- ④ シラス直上の石器群のまとまりを把握すること（近年、シラス直上における狸谷型ナイフの検出例が増加しており、その石器群の内容が問題となっているため）。

まだ他にも数多くの課題がある。来年度からの調査・整理作業では少しでもこれらの課題を解消できるようにしていきたい。

第1表 上猪ノ原遺跡第5地区出土土器観察表

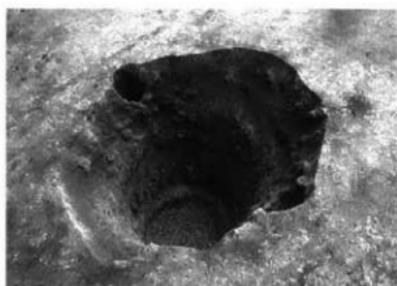
番号	出土地点・層位	分類	残存部位	紋様及び調整		色調		備考
				外面	内面	外面	内面	
1	SB-7	土師器壺	ほぼ完形	回転ナデ・底部を回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	に赤い褐色	に赤い褐色	口径13cm高さ6cm底径5cm
2	SB-7	土師器杯	ほぼ完形	回転ナデ・底部を回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	に赤い褐色	に赤い褐色	口径12cm高さ5cm底径5cm
3	SB-7	土師器杯	ほぼ完形	回転ナデ・底部を回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	に赤い褐色	に赤い褐色	口径12cm高さ4.6cm底径5cm
4	SC-19	土師器壺	口縁部・側部	多方向からのナデ・口唇部に横ナデ	ヘラ状ナデのナデ	に赤い褐色	に赤い褐色	外面全体にスス付着・内面に焦げ跡
5	7	陶帶文	口縁部	陶帶に刺突文・口唇部に目皿押圧印?	ナデ	に赤い褐色	に赤い褐色	
6	6	陶帶文	口縁部	陶帶に刺突文・ナデ	横ナデ	に赤い褐色	に赤い褐色	
7	7	陶帶文	口縁部	陶帶及び口唇部に斜位の刺突文	ナデ?	灰黃褐色	灰黃褐色	黒化のため内面の調整等は不明瞭
8	7	爪彫文	口縁部	陶帶に爪彫文・口唇部に刻目	ナデ?	に赤い褐色	に赤い褐色	黒化のため内面の調整等は不明瞭
9	7	爪彫文	口縁部	陶帶に爪彫文・口唇部に刻目	横ナデ・指頭圧痕	に赤い褐色	に赤い褐色	
10	6	爪彫文	口縁部	口唇部に刺突文・陶帶に爪彫文	ナデ?・指頭圧痕有り	に赤い褐色	に赤い褐色	黒化のため内面の調整等は不明瞭
11	5	下剥跡式	口縁部	棒状工具による削突文・口唇部にナデ	横ナデ・口唇部にミガキ	に赤い褐色	に赤い褐色	
12	5	扇ノ丸式	側部	羽状の短化線文	丁寧なナデ	に赤い褐色	に赤い褐色	
13	5	扇ノ丸式	口縁部	貝殻条痕による羽状文・口唇部にミガキ	横ナデ	に赤い褐色	に赤い褐色	
14	5	横円押型文	口縁部	横円押型文・口唇部にナデ	短沈線文・横円押型文	に赤い褐色	に赤い褐色	
15	5	山形押型文	口縁部	山形押型文・口唇部にナデ	短沈線文・山形押型文	に赤い褐色	に赤い褐色	
16	5	山形押型文	口縁部	山形押型文・口唇部にナデ	横ナデ	灰褐色	暗灰褐色	
17	5	塞ノ神式	口縁部	微剥離及び口唇部に削目・ナデ	口唇部に削目・横ナデ	に赤い褐色	に赤い褐色	
18	5	塞ノ神式?	口縁部	棒状工具による沈線文・口唇部に刻目	ナデ	暗灰褐色	暗褐色	
19	6	平削式?	口縁部	船付突帯に削目・沈線文	ナデ	に赤い褐色	灰褐色	壺形土器
20	5	塞ノ神式	口縁部	貝殻条痕による羽状文・口唇部にミガキ	ナデ	に赤い褐色	に赤い褐色	波状口縁
21	5	条痕文	口縁部	貝殻条痕の後一部ナデ	貝殻条痕の後一部ナデ	褐色	に赤い褐色	外面にスス付着
22	5	塞ノ神式?	口縁部	串状工具による沈線文・口唇部に刻目	貝殻条痕	に赤い褐色	に赤い褐色	
23	5	条痕文	口縁部	貝殻条痕・口唇部及び貼付帯間に削目	貝殻条痕の後一部ナデ	暗灰褐色	黄褐色	外面にスス付着・補修孔有り

第2表 上猪ノ原遺跡第5地区出土石器計測・分類表

番号	種類	出土層位	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	備考
24	槍先形尖頭器	6	安山岩	(2.3)	(2.4)	(0.05)	(2.4)	尖頭部破片
25	打製石鏹	5	安山岩	2.6	(1.4)	0.4	(0.8)	側部欠損
26	打製石鏹	5	安山岩	1.45	1.4	0.3	0.4	圓形鏹
27	打製石鏹	5	黒曜石(巖島)	1.55	1.15	0.3	0.4	
28	打製石鏹	5	黒曜石(巖島)	2.3	1.55	0.3	0.6	
29	打製石鏹	6	黒曜石(巖島)	2.15	1.35	0.5	0.8	
30	打製石鏹	5	黒曜石(巖島)	1.5	1.45	0.3	0.3	
31	打製石鏹	5	黒曜石(桑ノ木津留)	1.35	1.35	0.3	0.3	
32	打製石鏹未製品	5	チャート	2.05	1.7	0.35	1.4	
33	石鏹	5	チャート	(3.2)	1.6	0.95	(2.4)	尖端部欠損
34	石鏹	5	チャート	4.15	5.75	0.9	17.3	
35	石製品	6	砂岩	(4.4)	4.45	1.85	(35.9)	上部欠損か?
36	トロトロ石灘	5	チャート	3.15	2.6	1.85	5.7	磨痕は不明瞭だが顕微鏡観察で確認
37	石鍬	5	砂岩	7.2	5.65	1.5	81.1	
38	ナイフ形石器	11	頁岩	4.2	1.9	1.4	6.2	粗谷型に類する



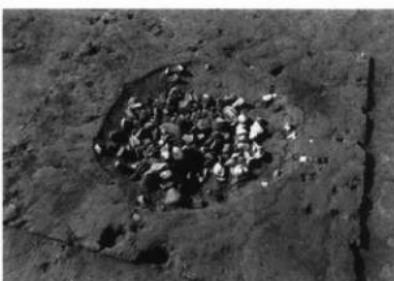
図版3 SB-7



図版4 SC-19①



図版5 SC-19②



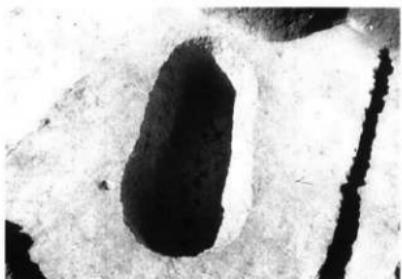
図版6 SI-8



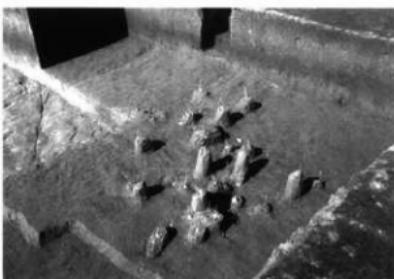
図版7 SI-10



図版8 SC-28



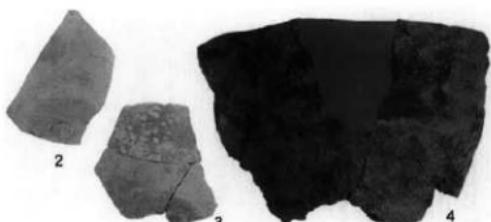
図版9 SC-16



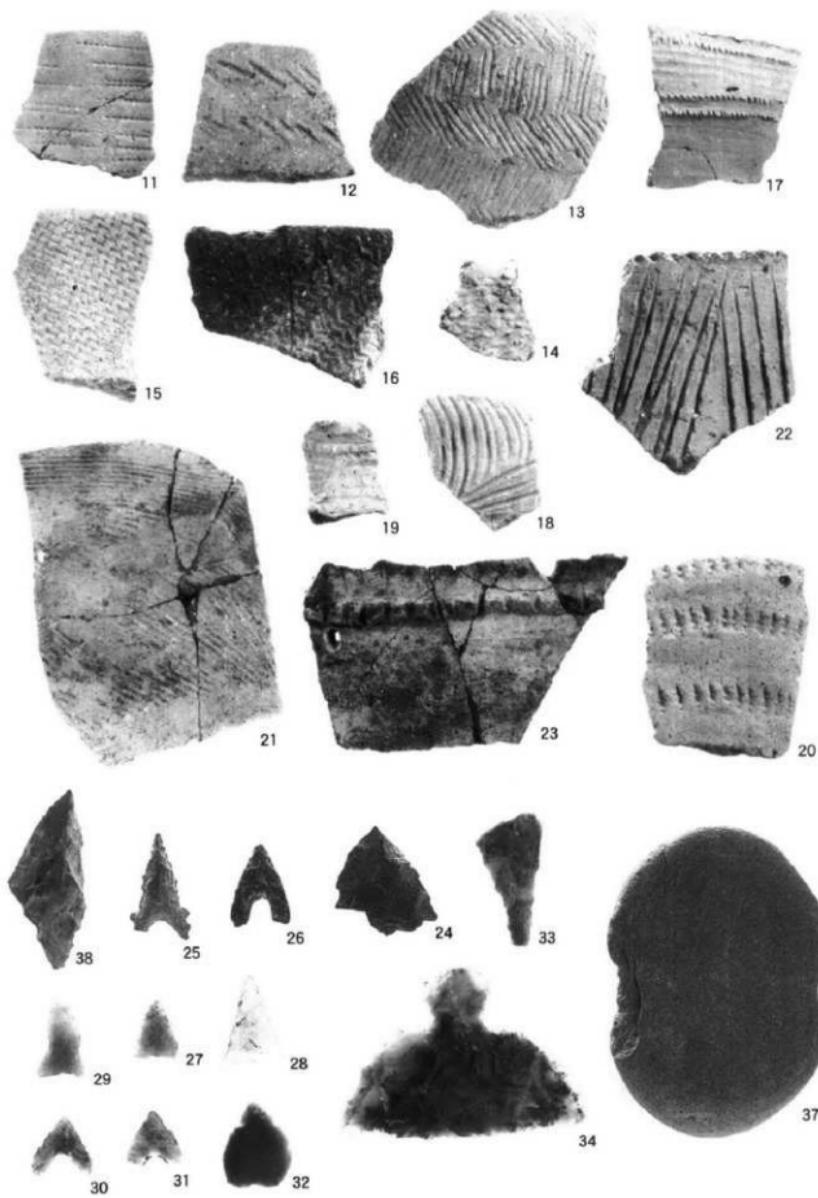
図版10 旧石器出土状況



図版11 SB-7出土遺物



図版12 SB-7及びSC-19出土遺物



図版13 上猪ノ原遺跡第5地区出土遺物②

## 調査抄録

フリガナ	カミイノハルイセキ				
書名	上猪ノ原遺跡第5地区				
副書名	県営農免農道整備事業船引2期地区工事にかかる埋蔵文化財調査概要報告書				
卷次	第1集				
シリーズ名	清武町埋蔵文化財調査報告書				
シリーズ番号	第19集				
編集者名	秋成雅博・今村結記・若杉知和				
発行機関	清武町教育委員会				
所在地	宮崎県宮崎郡清武町大字船引204番地				
発行年月日	2006年3月				
所在遺跡名	所在地	市町村：遺跡番号	北緯	東緯	調査期間
上猪ノ原遺跡	清武町大字船引字上猪ノ原	清武町：205	31° 51' 45" (日本測地形)	131° 22' 33" (日本測地形)	2005.7.26 ～ 2006.3.10
調査面積	調査原因	種別	主な時代	主な遺構群	主な遺物
3,700m <sup>2</sup>	農道整備事業	集落	旧石器 縄文（草創期） 縄文（早期） 古墳 古代	集石遺構 陥し穴 炉穴 掘立柱建物 など	石器 縄文式土器 土師器 など
特記事項					

---

清武町埋蔵文化財調査報告書 第19集

## 上猪ノ原遺跡第5地区

県営農免農道整備事業船引2期地区工事にかかる  
埋蔵文化財調査概要報告書

発行年月日 平成18年3月29日

編集発行 清武町教育委員会  
〒889-1696 宮崎県宮崎市清武町大字船引204  
TEL 0985-85-1111

印 刷 田中印刷有限会社  
〒880-0022 宮崎県宮崎市大崎三丁目110番地  
TEL 0985-28-4724  
FAX 0985-20-9285

---

